

## 博物館と学校教育との連携 II

—ジュニアミュージアム講座を利用した小学校の実践を通して—

青木正邦\*

### はじめに

昨年度（平成6年度）は国立立山少年自然の家と県内小学校の協力を得て、博物館と学校教育との連携の大切さを、ジュニアワークシートを利用した小学校の実践を通して考えてみた。その結果、ジュニアワークシートを使うことによって意欲的に興味をもって学習できるということがわかった。また、学校と博物館が、互いにそれぞれの学習の場を活用し合い、情報交換等を通して理解を深め合うことで、児童・生徒たちが自ら学ぶ力を育てあげて行くことが必要であるということもわかった。しかし、現状は見学の下見に来た教師から「見学に要する時間はどれだけですか」「どんな施設がありますか」という質問をよく受ける。つまり学校側は、社会見学の一つとして見学させるという、漠然とした理由で博物館を見学地に選んでいる場合が少なくないのである。これは、学校側と博物館側との意志の疎通が乏しかったということが原因であったと考えられる。また、見学方法も、博物館で展示物をじっくり観ようという姿勢より、班活動や規則が重視され過ぎる傾向が見受けられる。そこで、本年度は、昨年度に引き続き、学校からの期待や要望をふまえながら、学校教育との連携を常に念頭に置いた、学校への積極的な働きかけの方法や、博物館活動の在り方を考えてみたい。

### 1 当館の教育普及活動の内容

当館が現在行っている、学校への働きかけや連携（図1）は次の内容である。

#### 1.1 学校の教師への働きかけ

##### (1) 県内校長会への働きかけ

毎年4月に、学校教育における博物館利用について、県内の小・中学校に対しては、各教育事務所主催の第1回校長会で、また、高校に対しては、県高校協会主催の総会で説明する。

---

\* 富山県 [立山博物館]

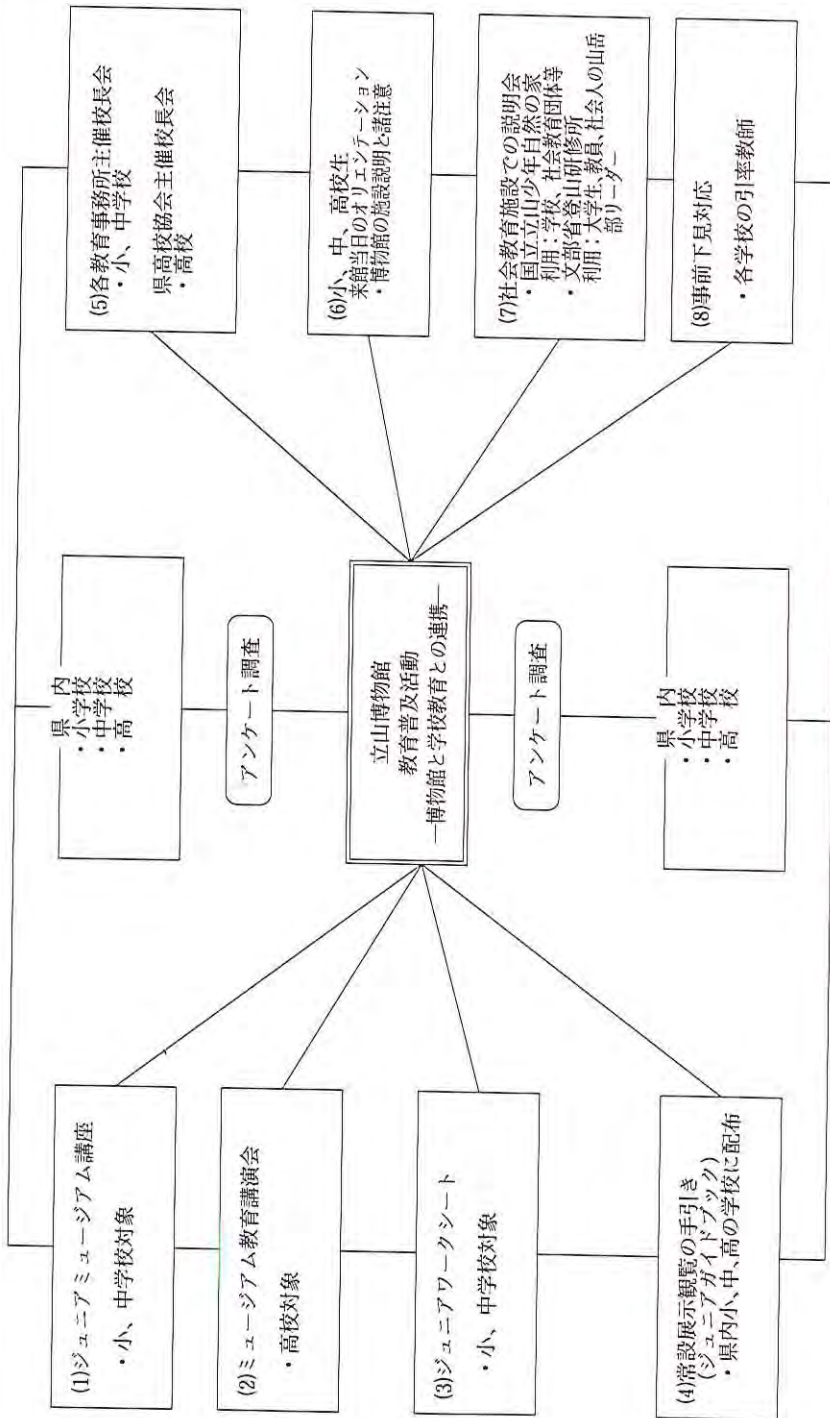


図1 学校教育との連携関係図

これは、どの学校も、1年間のカリキュラムや行事の計画が、年度当初に組まれることから、博物館の見学を校外学習等の中に組み込んでもらうために行っている。

## (2) 社会教育機関との連携

### 【国立立山少年自然の家での普及活動】

自然の家を利用する団体の代表者に、施設利用の方法、活動内容の調整、各種実践等の情報交換を行う合同事前打合せ会に、年5回参加し、立山博物館の特色や利用の方法を15分程度で説明する。

表1 平成7年度 合同事前打合せ会参加団体数と立山博物館見学団体数

打合せ会	期 日	対 象	参加団体数	見学団体数
第1回	4月14日(金)	5～6月利用団体	32	14
第2回	6月2日(金)	7月利用団体	19	8
第3回	6月30日(金)	8月利用団体	27	6
第4回	7月28日(金)	9～10月利用団体	25	13
第5回	2月1日(金)	1～2月利用団体	74	2

### 【文部省登山研修所での普及活動】

登山研修所の研修会や講習会に年6回参加し、立山博物館の特色や利用の方法を15分程度で説明する。研修会や講習会の参加者は、高校山岳部顧問や、大学の山岳部リーダー、社会人のリーダー等である。

表2 平成7年度 登山研修所の研修会、講習会の参加人数と参加者

研修会、講習会名	期 日	参加数	参加者
大学山岳部リーダー研修会	5月19日(金)	54名	大学生
雪上技術講習会	5月30日(火)	45名	大学生、一般
山岳遭難救助研修会	6月23日(金)	52名	大学生、一般
岩登り講習会	7月27日(木)	21名	大学生、一般
大学山岳部リーダー研修会	8月23日(水)	46名	大学生
大学山岳部リーダー研修会	2月29日(木)	48名	大学生

### (3) 教師（引率者）事前下見に対する対応

学校の教師との事前打合せは、見学の効果を高めるために重視している対応の一つである。見学に当たっては、教師に正しい理解を得てもらうことが極めて重要であることから、事前打合せにはでき得るかぎり来館してもらい、綿密に打合せを行うよう努めている。

当館での事前打合せの主な内容は次の通りである。

- ①日時…特に見学に確保できる時間の確認
- ②人数…大規模校の場合、どのような見学方法をとるか確認
- ③引率者数
- ④博物館施設の説明
- ⑤学校の指導との関連…事前学習の内容について
- ⑥ジュニアガイドブック、ジュニアワークシートの活用方法
- ⑦ジュニアミュージアム講座の紹介
- ⑧見学上の注意事項

打合せ後は、時間の許す範囲で、施設の下見をして帰ってもらうようにしている。また、下見の対応は当館学芸員が行い、「博物館利用の手引き」（図2）をもとに博物館の利用方法を説明している。

なお、この利用の手引きは、4月当初に県内の小・中学校、高等学校すべてに送付している。

## 1.2 児童・生徒への働きかけ

### (1) ジュニアミュージアム講座

博物館を見学する小・中学校を対象に、学芸員が学校に出向き、博物館の親しみ方及び立山の歴史に関する講座を開く。

### (2) ミュージアム教育講演会

博物館を見学する高校を対象に、博物館学習の一環として、学芸員が博物館のテーマである「立山学」を中心とした内容の講演会を行う。

### (3) ジュニアワークシート

博物館で作成したジュニアワークシートは、小・中学生が団体で見学する際に、単に漠然と見学するのではなく、見学のポイントを押さえ、常設展示資料についての理解をうながすための学習教材で、いわば、子どもたちの展示資料に対する観察行動に刺激を与えるものである。

# 博物館利用の手引き

## ■利用案内

開館時間	開館時間 午前9時30分から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）		
遙望館上映時間	遙望館上映時間		
観覧料	午前 10:00~10:40	11:00~11:40	
休館日	午後 1:00~1:40	2:00~2:40	3:00~3:40
観覧料 (常設展)		展示館	遙望館
	一般	300(240)円	100(80)円
	高・大学生	240(150)円	80(50)円
	小・中学生	150(90)円	50(30)円
		まんだら遊苑	400(320)円
			320(200)円
			200(120)円

※企画展示の観覧料はそのつど定めます。

休館日 毎週月曜日及び国民の祝日の翌日・年末年始  
(月曜日が国民の祝日に当たるときは、その翌日)

### 観覧料(常設展) の免除と手続き

県内の小学生・中学生・高校生及び社会教育団体並びにこれらの引率者が、教育課程に基づく学習活動として観覧するときは、常設展は観覧料が免除されます。(企画展は観覧料が必要です) 富山県立山博物館条例第9条

#### [手続き]

当館を観覧される場合「観覧料減免申請書」を来館2週間前までに送付してください。なお、観覧料減免申請書の用紙は当館で受けとるか、電話で申込みください。

#### [送付先]

〒930-14 富山県立山町芦峠寺93-1  
富山県〔立山博物館〕  
電話(0764)81-1216

### 常設展示観覧の手 引き(ジュニアガ イドブック)の利 用

- ◎仕様 96P A5版(教科書サイズ)
- ◎対象 県内児童・生徒
- ◎内容 立山博物館で展示している資料を中心として、立山の自然及び立山の歴史を紹介したもの
- ◎利用の仕方
  - ・校外学習における事前・事後学習としての活用
  - ・教科(社会・理科等)教材としての活用
  - ・郷土教材としての活用
  - ・文化部等、課外活動としての利用
  - ・その他
- ◎観覧される県内の学校には事前に配布します

図2-1 博物館利用の手引き (No.1)

## ■ジュニアミュージアム講座について

講座について 立山博物館を見学する学校（今年度は小学校対象）に対して、博物館職員が学校に出向き、博物館の楽しみ方等の講座を開きます。

問合せについて

学芸課青木まで直接連絡してください。  
電話：0764-81-1216  
FAX：0764-81-1144

## ■博物館の利用と指導について

事前の準備 施設の概要、見学の視点・方法等について、事前に指導しておくことが学習効果を高めます。  
そこで、観覧の計画にあたり、できる限り事前の下見をしていただき、当館職員との打合せをお勧めします。

見学にあたっての諸注意

- 施設内では、必ず係員の指示に従ってください。
- 館内では大きな声を出したり、走ったりしないように事前に指導しておいてください。
- 引率責任者は、受付で手続きをして入館してください。
- 団体でまとめて入館してください。個人での入館は、一般の入館者との区別がつきにくいのでご遠慮ください。館内での見学方法は自由です。
- 高、班別で見学したい場合は、事前に学芸課に連絡してください。
- 展示館の見学所要時間は約30～40分、まんだら遊苑は約60分～90分です。また、遙望館の上映時間は約40分です。
- 館内では飲食はできません。施設内での昼食を希望される場合は、事前に連絡してください。（遙望館前の多目的広場、有馬家、合学休憩舎が使用可能です）
- 当館が作成した、事前・事中・事後学習用の『ジュニアワークシート見本』があります。希望される学校は、当館学芸課まで問合せってください。
- ビデオコーナー等、さわってもよい所以外では、展示物・展示ケースにさわらないでください。

図2-2 博物館利用の手引き (No.2)

ジュニアワークシートは、希望する学校に渡しているが、教師にはそのまま使うのではなく、より児童・生徒の実態に合った手作りのワークシートを作成してもらいたいという当館側の願いも伝えている。

#### (4) 『常設展示観覧の手引』(ジュニアガイドブック)

ジュニアガイドブックは、立山博物館で展示している資料を中心として、立山の自然及び立山の歴史を紹介したものである。県内の観覧する小・中学校、高校には、無料で配布している。

#### (5) 来館当日のオリエンテーション

立山博物館展示館前で、当館学芸員が施設の特色や見学の仕方を説明する。これは、見学の動機づけ、見学への興味・関心を高揚させることが目的であり、楽しく学べるという気持ちを抱かせることを大切にしている。

## 2 博物館学習の実際

### 2.1 ジュニアミュージアム講座の実践例

ジュニアミュージアム講座をおこなった学校の、博物館学習に対する児童の様子を調査した。その調査の結果について以下に報告する。

ここではまず、ジュニアミュージアム講座を受けた小学校と、講座を受けていない小学校の事例を紹介する。

#### (1) ジュニアミュージアム講座を受けた小学校の事例

- ①学 校：県内小学校 6年
- ②年 月 日：平成7年9月19日（火）
- ③生 徒 数：72名
- ④引 率 者 数：5名
- ⑤学習の流れ：図3参照 ※ツブヤキは館職員が記録した。
- ⑥アンケート調査結果：表3

#### (2) ジュニアミュージアム講座を受けていない小学校の事例

- ①学 校：県内小学校 6年
- ②年 月 日：平成7年9月22日（金）
- ③生 徒 数：68名
- ④引 率 者 数：5名
- ⑤学習の流れ：図4参照 ※ツブヤキは館職員が記録した。





表3 ジュニアミュージアム講座実施後のアンケート調査結果 (297名/3校の集計)

質 問	回 答
1. 博物館はどんな時に利用したいですか。(いくつでも)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のある展示のとき。 24%</li> <li>・学校の勉強で必要なとき。 65%</li> <li>・昔の古い物を見たいときや、知りたいとき。 57%</li> <li>・自分の調べようとしているものがあるとき。 76%</li> <li>・その他 10%</li> </ul>
2. 立山博物館を知っていましたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っていた 22%</li> <li>・知らなかった 78%</li> </ul>
3. 今までに立山博物館を見学したことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある 13%</li> <li>・ない 87%</li> </ul>
4. ジュニアミュージアム講座の話を聞いての感想を書いてください。(◎は特に多かった感想である)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎博物館のなかがとても多いことに驚いた。</li> <li>◎立山連峰の意味がわかった。</li> <li>◎立山博物館にはたくさんさんの施設があり、とても広いことがわかった。</li> <li>◎立山を聞いた人がわかった。また、立山の伝説の話が面白かった。</li> <li>・展示してある本物をじっくり見たいと思った。</li> <li>・立山博物館に早く行きたくなった。</li> <li>・昔の人たちがなぜ立山に登ろうとしたのかわかった。</li> <li>・スライドなどで説明してもらったので、とてもよくわかった。</li> <li>・今までに行った博物館の中で一番楽しそうだった。</li> <li>・地鼠と極楽を体験するのが楽しかった。</li> <li>・二ホンカモシカのサチを早く見たい。</li> </ul>
5. 『立山博物館』で一番見てみたいものは何ですか。(◎は特に多かったもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎まんだら遊苑</li> <li>◎立山曼荼羅</li> <li>◎遙望館の映像</li> <li>◎布橋</li> <li>◎アサの森</li> <li>◎二ホンカモシカ</li> <li>・ツキノワグマ</li> <li>・頂上社殿</li> <li>・雄山神社</li> </ul>
6. 教師の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変わかりやすく、我々担任の事前理解に役だった。</li> <li>・子どもたちの生き生きとした姿が印象的だった。</li> <li>・子どもたちの見学意欲を高めることができたと思う。</li> <li>・博物館見学の計画案作りに役だった。</li> <li>・博物館が学校に対して、多くの事業を展開していることがわかった。</li> <li>・博物館に対するイメージが変わった。</li> </ul>



## 2.2 見学後のアンケート結果

ジュニアミュージアム講座を受けて見学した小学校3校と、受けていない小学校4校の児童にアンケート調査を実施した。結果は図5の通りである。

## 2.3 考察

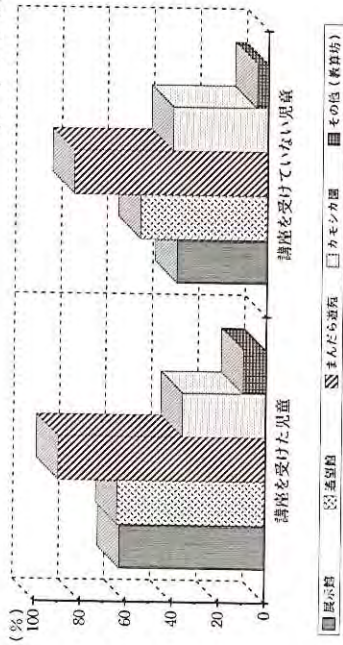
2.1 では、ジュニアミュージアム講座を受けた児童と受けていない児童の動きを、当館の展示館、遙望館、まんだら遊苑での児童らのツブヤキ、まなごし等の反応を中心に活動を観察してみた。まず講座を受けた学校には、下見から博物館見学終了までの過程を教師と相談し、児童自らが考え、発見させることを重視した。児童は、学校で作成してきたジュニアワークシートをもとに、楽しく調べたり、考えたりして取り組んでいた。子どもたちのツブヤキを観察してみると、「大きなブナの木がある」「立山の歴史に登場するツキノワグマだ」「雄山神社の頂上社殿だ、明日本物をみることができるぞ」「おんばさまはやはり恐そう」「これが立山曼荼羅か」など事前学習をしてきたことがうかがえた。また、各階にいる当館の職員に質問をしたり、ビデオ映像を最後までしっかりと見てから次に移動する児童が多かった。展示館での見学時間も約40分と、展示物をしっかりと見てまわった様子であった。一方、講座を受けていない児童は、ツブヤキが少なく、ビデオのボタンを押すが、途中でその場所から離れるなどの行動がみられた。

2.2 のアンケート調査では、講座を受けた児童は、立山の自然や歴史をワークシートをやりながらできた良さを認めている。また、立山について調べてみたいなど、児童の自ら学ぼうとする姿勢が見受けられた。反対に、講座を受けていない児童は、展示内容が難解な点を指摘している。

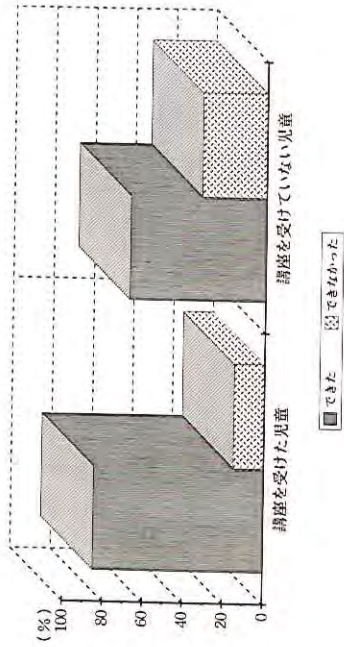
講座を実施した学校の教師の感想は、事前学習としての講座は、児童だけでなく、教師自身が事前にどのようなことを指導して見学すればよいか分かり、児童たちの見学の様子を見ていても、自分たちで進んで見学していたのでよかったというものがあった。一方、講座を実施していない学校の教師は、事前指導があまりできなかったせいか、児童には展示内容がやや難しいようであったなどの感想が多くあげられた。

以上から、ジュニアミュージアム講座をはじめ、様々な教育普及活動を実施するなど、学校と博物館が互いに学習の場を活用し合ったり、事前に情報交換を行ったことが、学習効果を高めることにつながったと考えている。

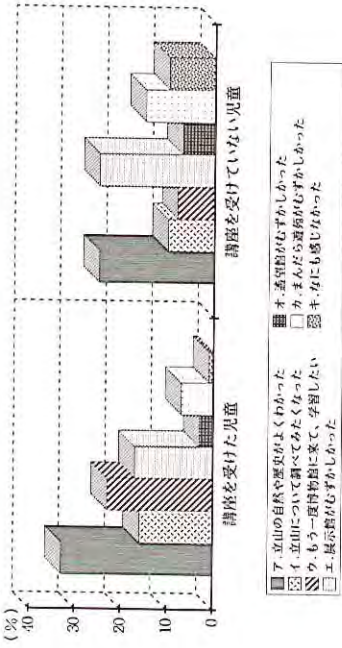
88 1. しっかりと見学できたところを選んでもください。  
(いくつでも)



2. 「ジュニアワークシート」を楽しくやることができましたか。



3. 立山博物館を見学しての感想を次のア～キから選んでもください。



4. ジュニアミュージアム講座を受けた人だけ答えてください。見学前に、ジュニアミュージアム講座を受けたことは良かったと思いますか。

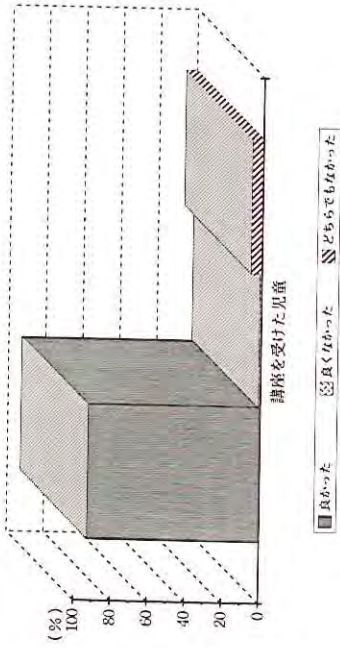


図5 アンケート調査結果 (講座を受けた児童数297名/3校、受けていない児童数321名/4校)

## おわりに

博物館と学校教育との連携を、昨年度はジュニアワークシート、今年度はジュニアミュージアム講座を重点に実施したが、児童・生徒が自ら学ぼうとする力を育てあげていくために非常に有益であったと思われる。また、最近では、教師が作成する学校独自の課題を利用して見学する学校団体が増加しており、よろこばしい傾向である。課題は、教師の十分な事前見学により作成し、見学の観点を与えたり疑問を投げかけたりして、児童・生徒の主体性を育てようとするもので、学校により様々な工夫が見られる。小学校では「発見ノート」を持たせて見学させたり、「興味のある展示の絵を描く」といったものや、自由に気付いたことをメモするという課題も見られた。これらの課題を持った児童の目の輝きは、実に印象的であった。

昨今、多くの学校で、学校ではできない博物館ならではの実物展示や資料を積極的に活用していこうとする試みが進められている。さらに、生涯学習の動機付けとしての観点からも、博物館の見学が学校教育に組みこまれてきている。これらの状況を受けて、今後学校と協力しながら、博物館の利用法や展示の教材化等について、さらに研究を進めていく必要があると考えている。